

# 「自然と労働」についての方法の問題

## 群馬県上野村をとおして

Methodology of Study on "Nature and Labor"

### 内山 節

はじめに

- ①自然の無事
- ②共同体における交通と自然
- ③存在する共同体について
- ④共同体的交通の性格
- ⑤「仕事」と「稼ぎ」
- ⑥「広義の労働」と「狭義の労働」
- ⑦労働に対する「精神の習慣」
- ⑧まとめに代えて

#### 【論文要旨】

日本の伝統的な考え方においては、自然は人間の外にある客観的な対象ではなく、自然と人間は相互に関係しあうものであった。人間の存在のなかに自然が入り込み、自然の活動のなかに人間が入り込むと考えられていた。

この関係を実現させるものとして、共同体社会があり、人間の労働があると人々は考えた。ゆえに労働は、生産的行為として考えられていただけでなく、人間の暮らしをつくり、共同体を守り、自然と関係する働きかけのすべてであると思われてきた。

本稿は、このような視点から、日本の歴史に影響を与えた“自然”と“労働”とは、どのようなものであったのかを明らかにする。その考察をとおして、合理的な認識が可能なものと、非合理的なものを統一していく主体とは何かを、“技”、“慣習”、“記憶”、“物語”などのなかに発見していく。